



令和2年度

## 新潟県立新発田病院附属看護専門学校

### 第64期生 入学式を挙行了いたしました。

令和2年4月8日(水)、学校講堂にて「令和2年度(第64期生)入学式」が挙行され、39名の入学が許可されました。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、規模を縮小し、且つ、マスク装着や換気等、感染防御を徹底した上で執り行いました。

新入生の代表者は、「いかなる時も初心を忘れず、仲間とともに励ましあいながら、目標実現に向けて日々精進し続けます。」と誓いの言葉を述べました。

教職員一同、一丸となって新入生一人ひとりの夢の実現に向けて支援して参ります。

入学式に際し、皆様より、心のこもったご祝電をいただきましたことに、改めまして厚く御礼申し上げます。

以下に学校長式辞、新潟県病院事業管理者告示を掲載します。



令和二年度

新潟県立新癸田病院附属看護専門学校

## 入学式 学校長式辞

桜の花が咲き誇る今日の良き日に、めでたく入学された新潟県立新癸田病院附属看護専門学校六十四期生三十九名の皆さん、入学おめでとうございます。晴れてこの日を迎えられた皆さんを、教職員および在校生一同は心から歓迎申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のためとはいえ、本来ならご臨席を賜るはずの新潟県病院局長様、新癸田市長様、新癸田北蒲原医師会長様、新潟県看護協会会長様、新癸田地域振興局健康福祉環境部長様、同窓会長様はじめ多くの来賓をお呼びできず、皆さんの入学に多大なご支援をいただいたご家族様や在校生にも同席いただけず、誠に残念です。ご家族様はじめ入学に際し、ご支援をいただきました皆様には、あらためてお祝い申し上げます。

一見すると寂しい入学式です。卒業式もそうであったかもしれませんが。しかし歴史的で象徴的な場面に遭遇しています。実は患者さんの多くも、このように突然に悲

しい状況に遭遇します。看護師は 理不尽にも悲しい環境に置かれた患者さんに共感して 寄り添う立場にあります。そのような患者さんにも似た環境を体験することとで 現実味を感じて第一歩を踏み出すことができます。皆さんは看護師への道を祝福されて迎えられたと私は思っています。天の与えた時を掴んだと思っています。

しかし 望まれた道を選んだと言っても、今日から始まる三年間の教育課程は それほど容易でないと考えて下さい。国家資格を取るまで 強い覚悟と不断の努力が必要です。この春卒業した六十一期生が一致協力して 全員卒業・全員合格を果たしたように 皆さんも団結して目標を達成してください。

さて、日本は社会保障の転換期に差し掛かり、少子高齢化や地域包括ケアシステム構築が求められ、看護師の重要性が増し、その需要は高まると予想されています。加えて、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大は 日頃から危険の中に立ち向かう看護師はじめ医療者の姿にあらためて注目が集まり、医療界全体の価値観は高まると思っています。

私達教員一同は三年間の指導成果に自信を持っています。

す。教官と臨地実習指導者たちは懸命に指導します。ご両親はじめご家族やご支援者の皆様には引き続き温かく見守り優しくご助力をいただきますようお願い申し上げます。

さて、新入生の皆さんは看護の道の出発に際し初心を胸に刻み夢への誓いを新たにして下さい。そして、常に人間性の成長を心掛けて下さい。信頼される看護師になるには、患者さんに安心を感じさせる看護師になる必要があります。

我々の前に来る患者さんの多くは心を傷めています。更に医療によって結果が悪くなるとは限りません。そのような場面でも我々は病気や障害や期待外れの結果にも臆することなく患者さんに寄り添わなければいけません。不安と戦う患者さんを尊重し、根気強く支援できる人間力を養って下さい。

次に現実的な話をします。国家試験に合格するため膨大な知識を獲得して下さい。一年生では主に医療の基礎分野を学びます。医学用語は耳慣れず覚えるのが大変ですが、仲間と励まし合って慣れてください。続いて病気やその治療過程を理解するため病態学や薬理学、微

生物学などを学びます。続いて成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の概論講義を受け、看護のあり方を知ります。盛りだくさんの内容に接し、試験に進むれ あっという間に時間が過ぎることでしょう。二年生になると 看護の心を引き継ぐ継灯式でナイチンゲールから伝わる思いを受けて 本格的な看護体験である臨地実習に入っていきます。

卒業生に聞きますと、最後の一年は実習や国家試験準備で瞬く間に過ぎるそうです。知識や技術以外にも、不規則な勤務に耐えられる体力と不屈の精神力などが求められます。

看護の道に進むための日々の努力や苦勞は 将来の働き甲斐につながり、やがて働き甲斐となっていくことでしょう。我々は患者さんの笑顔や感謝の気持ちを受けること、多くの困難や苦勞をはるかに超えた喜びを感じます。看護の道を選んで良かったと思える人生になるよう祈っています。新潟県は医師も看護師も不足し 皆さんの出番を強く望んでいます。一日も早く現場の戦力となるよう、日々努力を続けて下さい。

現場では医療の不確実性や危険を前にして 医療者は

仲間意識を強くします。仲間を信じ仲間の応援を受け、チームで働き情報を共有し 支え合いましよう。これから仲間は 一生の財産となり 看護師人生を明るく支えてくれます。大切にして下さい。

今日から一生続く勉強と人間的成長に 患者さんの存在は欠かせず 我々の一番の先生です。多くのことを学ばせていただく という謙虚な気持ちで接すると、患者さんへの理解は一層進みます。感謝する心は看護の基本だと考えてください。

最後にお願ひがあります。日々の仕事や勉強を進めるにあたり、自分の健康を維持することに留意してください。皆さんが心身ともに健康で、充実した学生生活を過ごせるよう心からお祈り申し上げます。

ご列席の皆さんと関係各位のご健勝とご多幸を祈念し、式辞といたします。

令和二年四月八日

新潟県立新癸田病院附属看護専門学校長

塚田芳久

## 告 辞

県立新発田病院附属看護専門学校の令和二年度第六十四期生入学式に当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

新入生の皆さん、本日は誠におめでとうございませす。

また、これまで温かい愛情を持って支え、見守ってこられたご家族の方々には心よりお喜びを申し上げます。

今年も看護職を目指す若者が、本校の門をくぐり、たくさんの希望を胸に目を輝かせている姿を目にし、大変うれしく思います。

本校は、昭和三十二年、当時全国でも数校しかなかった准看護師から看護師への進学課程として発足しました。昭和五十一年には三年課程となり、六十三年の歴史と伝統をもっております。母体病院である県立新発田病院等での実習を通して、豊かな人間性と看護に関する幅広い能力を持った看護の実践者を養成し、これまでに約二千名の優れた先輩が

巢立ち、県内外で広く活躍しておられます。

本日、みなさんは、「看護職になる」という明確な目的を持ち、高い志を実現するために本校に入学されました。これから始まる三年間の学生生活において、ともに学び、笑い、励まし合いながら、自分がやりたいことを実現するためのスタート地点に、今、全員で立っています。お互いに信頼と敬意を持って接する日々の積み重ねで育まれる「かけがえのない友や恩師」という関係は、生涯にわたって支えとなってくれます。志を同じくする学生同士で交流を深めながら、豊かで実りある学校生活を送られるよう願っております。

さて、今年はフローレンス・ナイチンゲールの生誕二百周年を迎えます。ナイチンゲールという人物名は皆さんもよく知っていると思います。ナイチンゲールは、一八二〇年にイギリスで生まれ、看護師だけでなく統計学者としても知られています。近代看護教育の母と言われ、世界初の病院に付属した看護学校を設立し看護教育に尽力しました。



ナイチンゲールの思想は多くの著書で知られていますが、看護とは何か、病気とは何か、健康とは何かを看護論として説いています。そして、「看護を行う私たちは、人間とは何か、人はいかに生きるかをいつも問いただし、研鑽を積んでいく必要がある」と教えてくれています。

皆さんが活躍する二十一世紀の社会は、「超高齢少子社会」であり、人口構造の変化や科学技術の進歩に伴い、医療提供体制や医療技術が多様化、高度化する時代です。

急速に変化する状況の中で、医療の中心的な担い手になる皆さんには、社会から大きな期待が寄せられていきます。専門的な知識・技術はもちろんですが、命に関わる者としての高い倫理観と、悩み苦しんでいる人に対する人間としての優しさ、そして思いやりが求められています。日々進歩する医療に対し、自ら考え適切に判断する力と、積極的に学びスキルアップを目指す姿勢を養ってください。「命」と向き合う環境で、その大切さを知れば知るほど厳しい現実と向き合うこともあります。その先には、自身の成長が待っていることと思います。どんなと

きでも目を背けることなく、人間とは何か、生きる  
とは何かを考え続け、看護のプロフェッショナルへ  
と成長されることを期待しています。

終わりに、ここにお集まりの皆様はじめ関係の皆様  
様の学校に対する一層のご支援をお願い申し上げます  
ますとともに、本日入学されました皆さんが充実し  
た学生生活を送られることを祈念いたしまして、告  
辞とさせていただきます。

令和二年四月八日

新潟県病院事業管理者

藤山 育郎